

## 1 研究主題

### 学校教育目標「夢を持ち 大地にかがやく子」の具現

～「主体的・対話的で深い学び」と「キャリア教育」を通して～

## 2 はじめに

令和2年度から、新学習指導要領が全面実施となり、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の実現を図り、「生きる力」を育むことを目指している。これは、現代社会がグローバル化や技術革新など変化が著しい中で、子供たちがたくましく生き抜いていくために、様々な事象との関わりの中で、主体的に学び、豊かな人間関係の中で、他者と協働しながら、様々な課題を解決していく力が必要となるからである。また、浜松市でも、こうした現代社会を生き抜いていく子供たちにとって必要な力を育むために、令和2年度から第3次浜松市教育総合計画の後期計画が始まった。「自分らしさを大切にする子供」「夢と希望を持ち続ける子供」「これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子供」を目指す子供像とし、キャリア教育を核とした人づくりを推進している。

本校では、以前より、分かる喜び・できた成就感を味わわせる授業改善を進め、発達支援教育を基盤とした、全ての授業のユニバーサルデザイン化が図られてきた。そして、平成30年度から全教育活動を通して基礎的・汎用的能力を育む「キャリア教育」に取り組んでいる。また、昨年度からは、研究主題を「学校教育目標『夢を持ち 大地にかがやく子』の具現」とし、これまでの研究を引き継ぎ、「主体的・対話的で深い学び」と「キャリア教育」を通じた授業改善を進めている。

## 3 研究主題設定の理由

これまでの研究を通して、「授業のユニバーサルデザイン化」の積み上げが、学習のルールを守り、互いを認め合う学級集団を形成してきている。また、少人数での交流活動では積極的に意見交換できている。しかし、友達の考えの意図を理解し、自分の考えを豊かにしたり、高めたりして更に全体に伝えるということはまだ十分ではないという課題が見えてきた。

基礎的・汎用的能力を育むキャリア教育については、教職員の理解が深まってきた。その上で、本校の「キャリア教育で育てたい力」を設定し、キャリア教育年間指導計画を見直して、それに沿って各教科の授業の中でキャリア教育を展開することができるようになってきた。しかし、主体的・対話的で深い学びの実現とキャリア教育の関係、キャリア教育年間指導計画に位置付けた授業と位置付けていない授業の展開の違い、子供だけでなく保護者と「キャリア教育で育てたい力」の共有の仕方など、まだまだ課題が

ある。また、令和2年度から始まったキャリア・パスポートについても、再度検討し実施していく必要がある。

そこで、令和3年度も引き続き、研究主題を

「学校教育目標『夢を持ち 大地にかがやく子』の具現  
～「主体的・対話的で深い学び」と「キャリア教育」を通して～」  
と設定した。

本研究主題により、教育活動の全ては学校教育目標の具現にあるという意識を教職員が自覚し、全教職員が共通理解しながら子供の育成に取り組んでいく意識を高めていきたい。そして、本市が核としている「キャリア教育」は全教育活動を通して展開していることや、生きる力に必要な資質・能力は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であることから、本年度も昨年度に続き、「主体的・対話的で深い学び」と「キャリア教育」を通じた授業改善に焦点を絞っていきたい。

## 4 育てたい力

### (1) 思考力、判断力、表現力等（思考力・判断力・表現力）

- 必要な情報を見つけ出し、取り出して、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりする力
- 習得した知識及び技能を使って考え、考えたことを表現する力  
※理解していること・できることをどう使うかなど、未知の状況にも対応できる力の育成

### (2) 学びに向かう力・人間性等（主体的に学習に取り組む態度）

- 「学びたい」という気持ちと、「目標を達成するために粘り強く取り組んでいこう」という思い  
（基礎的・基本的な知識・技能やそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高める上での基盤となるもの）  
※どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかなど、学びを人生や社会に生かそうとする力の涵養

### (3) 知識及び技能（知識・技能）

- 学習を成立させるための土台となる学力であり、後の応用的な学習に活用するためのものとなるもの  
※何を理解しているか、何ができるかなど、生きて働く力の習得

### (4) 基礎的・汎用的能力

- 分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力
- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力

## 5 本年度の研究

### (1) 研究仮説

学校教育目標『夢を持ち 大地にかがやく子』を具現する方策として「主体的・対話的で深い学び」と「キャリア教育」を通じた授業改善に取り組むこととする。そのためには、本校としての「主体的・対話的で深い学び」の捉え方と、本校の子供たちにキャリア教育で育てたい基礎的・汎用的能力を共通理解する必要がある。

ア「主体的・対話的で深い学び」の捉え方

「主体的な学び」とは、

- 「単元（題材）を貫く問い」の追究に取り組むことで、学ぶ意欲をもち、ゴールイメージとプロセス（過程）イメージ（見通し）をもって、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、粘り強く取り組む学び。
- 学習（教科・領域の目標に向かった活動）と自校の育みたいキャリア教育で育てたい4つの力（基礎的・汎用的能力）を関連付けながら、学習に取り組む学び。
- 学習活動を振り返って、次の学習や将来につなげようとする学び。

「対話的な学び」とは、

- ペアやグループ、全体での話合いや、身近な大人との対話、調べて分かったこと等を基に、自己の考え方を広げ、深める学び。

「深い学び」とは、

- 最適解や納得解を求めるような問い（「深い学びに導く問い」）に対し、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、集めた情報を精査して考えたり、問題を見いだして解決策やその子（その集団）なりの解を考えたりする学び。

イ 本校の子供たちに育てたい基礎的・汎用的能力

教師が4つの育てたい力について意識したり、子供たちが自覚したりして活動できるように、子供の実態に合った言葉を設定し、学習活動の中で示していく。

- 人間関係形成・社会形成能力 → かかわる力
- 自己理解・自己管理能力 → 見つける力
- 課題対応能力 → 解決する力
- キャリアプランニング能力 → イメージする力

以上のことから、下のような研究仮説を立て、研修に取り組んでいく。

**仮説1** 教師が、子供から「単元(題材)を貫く問い」(以下、「単元を貫く問い」)と「深い学びに導く問い」が生まれる単元構想を工夫することで、子供は主体的・対話的で深い学びをすることができ、育てたい力を身に付けることができるであろう。

**仮説2** 子供と教師が育てたい基礎的・汎用的能力を子供と教師が共有(子供が自覚)し、活動を見通したり振り返ったりしながら進めることで、子供は学びが将来や社会につながることを理解し、「なりたい自分」を目指すことができるであろう。

## (2) 重点と具体的な方策

### ア 主体的・対話的で深い学びの実現

単元構想や問いの工夫（単元構想時や日頃の授業の中で、指導者がそれぞれの学びに導く手立てを取り入れる）

※ 単元構想に、それぞれの学びに導く手立てを入れる。

#### <「主体的な学び」の実現に向けた支援>

- ・意欲や必要感をもたせる導入の工夫
- ・問い（「単元を貫く問い」）が生まれる導入の工夫
- ・見通しのもたせ方の工夫  
（ゴールイメージとプロセスイメージをどのようにもたせるか）
- ・学習活動が次の学習や将来につながるよう振り返りを設定する など

※「単元を貫く問い」とは、単元の導入時に、単元の学びに対する子供の意欲を喚起し、子供が単元を通してスパイラル的に習得・活用・探究を繰り返しながら、問いの解決に取り組みたくなる（取り組まなければならない）問いのこと

#### <「対話的な学び」の実現に向けた支援>

- ・ペアやグループ等の形態の工夫
- ・1時間の授業における話合い（全体）の質の向上
- ・考えの伝え方の指導 など  
例：友達との話合い、大人との対話、調べて分かったこと等を基に自分の考えを形成し伝え合う  
友達の考えと比べたりつなげたりして考えを広げる

#### <「深い学び」の実現に向けた支援>

- ・これまでの学習や経験を活用し、「深い学びに導く問い」が生まれる工夫
- ・各教科の「見方・考え方」を働かせる学びの工夫 など

※「深い学びに導く問い」とは、習得した知識・技能を関連付けたり、高めたりすることで、より高次とした知識・技能を活用して、子供が主体的・対話的に問いの解決に取り組みたくなる（取り組まなければならない）決まった答えのない問い（最適解や納得解を求める問い）のこと

### イ キャリア教育の視点での授業改善

- 学期の始めに、学級担任は、子供が授業の中でキャリア教育を自覚するために「未来へつなぐ学び」としてキャリア・オリエンテーションを行う。また、子供が目標を立て、キャリア・パスポートに記入する。
- 学期の終わりに、子供が、学期の始めに立てた目標の振り返りをして、キャリア・パスポートに記入する。次学期の始めまでに、学級担任は、振り返りに対してコメントを記入する。
- キャリア教育年間指導計画を廊下に掲示する。
- キャリア教育年間指導計画に位置付けられた単元（キャリアAの学習）または、それに準ずる単元（キャリアBの学習）導入時に、授業者が「4つの力」のうちどの力をどのように育てていくかについてのオリエンテーションを行い、授業の中でキャリアプレートを提示したり、「4つの力」について振り返りの時間（「未来へつなぐ一言」を含む）を設定したりする。また、教

室に、この学習で「4つの力」のうち、どの力を育てているのか子供が自覚することができる掲示をする。

- 夏休みに、学年で、子供の実態に合わせて2学期以降のキャリア教育年間指導計画を見直し、教科学習や教科外活動、学校外での活動で実践する。
- 年度末に、各学年で、子供の実態に合わせて、次年度の育みたい力を検討したり、次年度のキャリア教育年間計画を作成したりする。

## ウ 授業のユニバーサルデザイン化

これまで積み上げてきた「授業のユニバーサルデザイン化」を継続していく。「授業のユニバーサルデザイン化」とは、特に支援を必要とする子供への理解を深め、その特性に応じた支援や手立てを講じることは基より、より高い要求をもった子供への対応まで、様々な子供のニーズ、学級の実態に合わせた指導の工夫を図ること。安易で単なる学習の工夫ではなく、各自・各集団の要求に合った「分かる喜び・できた成就感」であることを目指している。

### ①「見通しをもたせる工夫」

教師は子供の実態をとらえ、身に付けさせたい力を明確にして、実態に即した単元構想を工夫し、子供が見通しと必然性をもって意欲的に授業に取り組むことができるようにする。

- 導入の工夫
- 学習計画や手順、1時間の授業の流れの提示
- 他教科・領域など他の教育活動との関連

### ②「めりはりのある授業展開」

子供が授業に集中して、意欲的に活動に取り組む手立てを講じる。

- 分かりやすく明確な発問の工夫
- 映像や絵、拡大印刷を使うなど視覚に訴える工夫
- 相手意識を高める交流の場や方法の工夫
- 補助教材や達成感をもたせる教材の準備

### ③「学習環境の整備」

学び合いに大切なことは、まず互いを認め合える学級集団作りである。そのために、学習ルールを守って集中して学習に取り組める教室環境をつくる。また基本的な学習ルールについて全学級で統一し、確実に身に付けさせていく。

- シンプルな前面掲示
- 机上の整頓
- あたたかい聴き方・やさしい話し方

## エ 「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」の定着

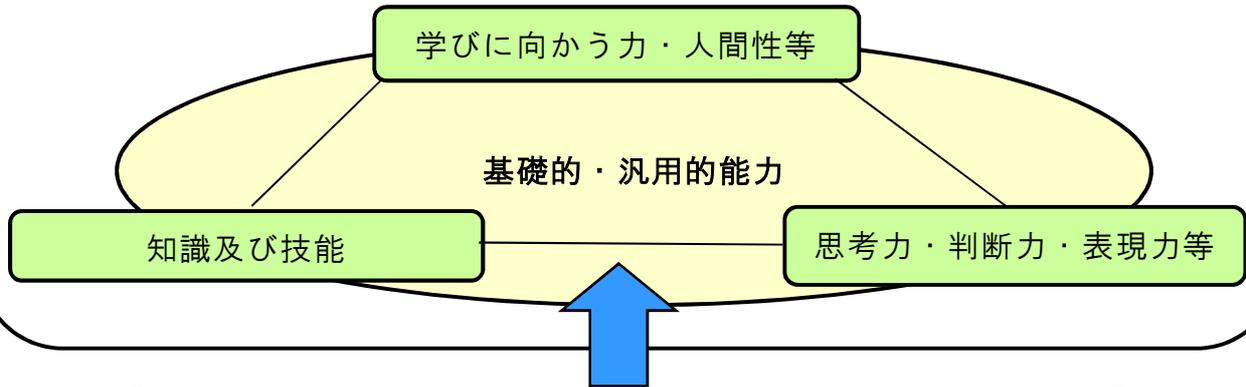
これまで積み上げてきた「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」の定着を図り、各発達段階で鍛える。

- ※「願う話合いの姿 及び 身に付けさせたい『あたたかな聴き方 やさしい話し方』」（教育計画参照）を活用
- 授業や生活の中で、子供が安心して話ができる環境を設定する。
- 語彙を豊かにする指導の改善・充実を図る。  
（資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の重要な要素）
- 朝や帰りの会において、スピーチの機会を設定する。  
（自分の言葉で思いや考えを表現する習慣づけ。聴く態度の徹底。）

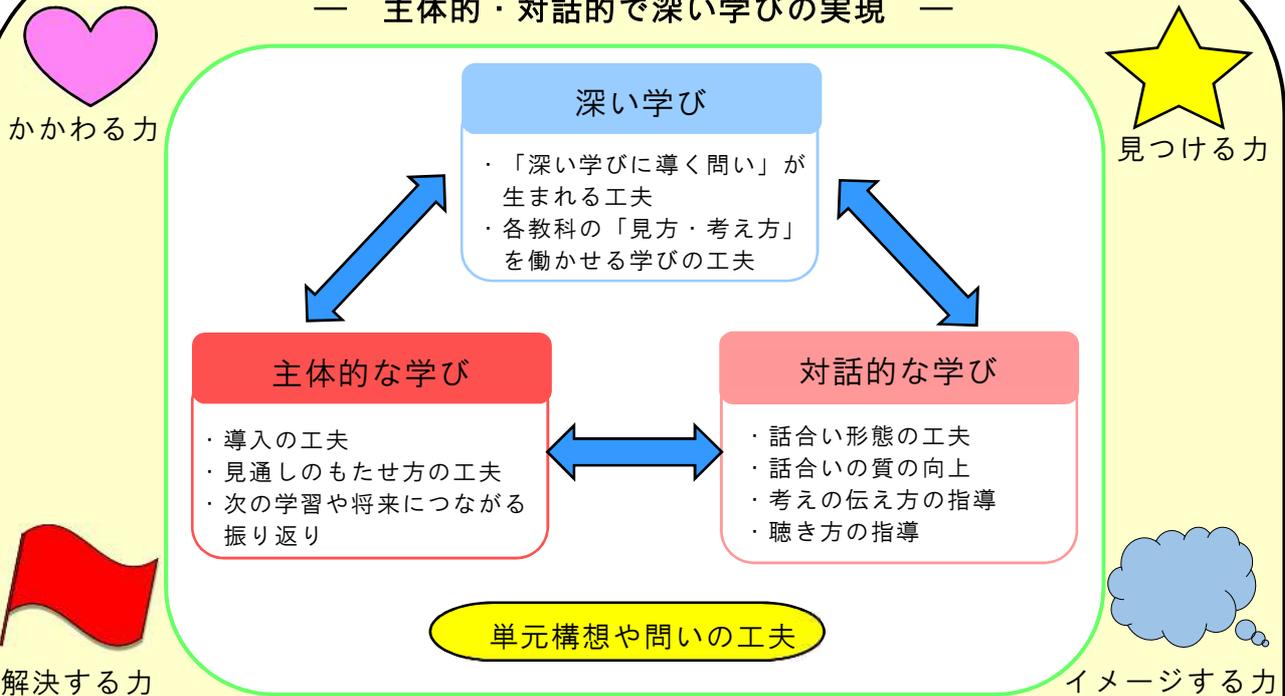
6 研究構想図

【学校教育目標】 夢を持ち 大地にかがやく子

【研究主題】 学校教育目標「夢を持ち 大地にかがやく子」の具現  
～ 「主体的・対話的で深い学び」と「キャリア教育」を通して ～



— 主体的・対話的で深い学びの実現 —



— キャリア教育の視点での授業改善 —

- ・ キャリア教育年間指導計画の作成
- ・ 4つの力を教師と子供で共有（自覚）した授業
- ・ 「学びを未来につなぐ一言」の工夫
- ・ キャリア・パスポートの活用

手立てに沿った授業や活動の実践

「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」

授業のユニバーサルデザイン化

発達支援教育の理念を基盤とした学級づくり 児童理解（実態の把握→指導に生かす）